学　会　記　事

第46回通常総会

昭和35年5月28日，9時30分より早稲田大学大隈小講堂で出席者140名，委任状718名，計858名をもって法定数673名を突破したので総会成立，議事に入る。

昭和34年度事業報告 (34.4.1～35.3.31)

尾之内総務理事より説明があった。

会長	田中茂美	
副会長	本間　仁	富樫凱一
理事（総務）	川村満雄	尾之内由紀夫
同（経理）	藤村久四郎	田中行男
同（編集）	八十島義之助	井口昌平
同（研究連絡）	小野竹之助	川勝四郎
同（調査）	比田　正	西嶋国造
専務理事	末森猛雄	

1. 理事改選（昭和34年6月9日，常議員会で決定）

	（退任）	（後任）	（留任）
会長	米田正文	田中茂美	
副会長	篠原武司	富樫凱一	本間　仁
理事	高野　務	川村満雄	藤村久四郎
同	中安米蔵	尾之内由紀夫	小野竹之助
同	渡辺寅雄	田中行男	比田　正
同	国分正胤	八十島義之助	井口昌平
同	野田和郎	川勝四郎	西嶋国造

2. 専務理事（昭和34年11月30日，常議員会で決定）

専務理事制定に関する定款改正が11月14日付文部大臣認可となり，末森猛雄を選任。

3. 登　記

1) 理事変更登記　昭和34年8月5日付
2) 専務理事登記　昭和35年2月2日付

4. 通常総会および役員会

（1） 通常総会 (34.6.13・広島大学教育学部講堂)

出席者：238名，委任状746名，計984名，有権者13 686名（法定数686名）

1) 第1号議案　昭和33年度事業報告承認
2) 第2号議案　昭和33年度決算報告承認
3) 第3号議案　専務理事制設定に関する定款の一部改正を可決
4) 第4号議案　名誉員に鈴木雅次君，吉田徳次郎君，平山復二郎君，黒田武定君，堀越清六君，高西敬義君の6氏を推挙を可決
5) 土木賞の授与
　学会賞：1　中尾　光信君，　実君，住友　彰君
　　2　藤井松太郎君
　　3　佐藤　志郎君
　奨励賞：1　岩佐　義朗君
6) 新任役員の紹介
7) 米田会長講演：最近の河川計画について
8) 記念講演：
　蜂谷広島通信病院長；原爆の災害と家屋の放射遮蔽効果
　小倉広島大学教授；古代の瀬戸内海周辺

（2） 常議員会 (34.6.9)

1) 昭和34年度役員改選可決。2) 昭和33年度事業報告可決。3) 昭和33年度決算報告可決。4) 名誉員推挙候補者6氏を承認。5) 昭和33年度土木賞授賞者の報告。34.11.30 専務理事選挙の結果末森猛雄君当選可決。35.1.22 昭和34年度土木賞委員会委員28名を決定。35.3.30 1) 昭和35年度事業計画案可決。2) 規則の一部会費改正案可決。3) 昭和35年度予算案可決。

（3） 理事会 (34.4.21～35.3.24・12回)

協議事項　104件　　報告事項　203件

（4） 第2回支部長会議 (34.8.25)

事業各項につき支部との連絡会議が行なわれた。

（5） 各委員会責任者と理事との懇談会 (35.2.24)

35年度事業計画および予算編成に関し懇談会が行なわれた。

5. 各種委員会

（1） 会誌編集委員会

委員長　田原　保二　　副委員長　井口　昌平
委員および幹事　27名
1) 本委員会12回　小委員会12回　臨時委員会6回.
2) 土木学会誌　44巻4号～45巻3号　12冊発行。
　登載原稿：交通シンポジウム6，報告35，資料12，解説3，寄書23，その他講演，論説，文献抄録文献目録，一般報告および紹介事項等。
　発行ページ：1 000ページ　　発行部数：179 900部

（2） 文献調査委員会

委員長　樋口　芳朗　　委員および幹事　17名
1) 委員会12回，2) 学会誌　44巻4号～45巻3号に抄録99ページ，目録52ページを登載，3) 文献目録を部門別に整理し，文献カードを作成している。

（3） 論文集編委員会

委員長　最上　武雄　　部会長　奥村　敏恵，竹内　俊雄，丸安　隆和　　委員および幹事　36名
1) 委員会　部会長会6回，各部会6回，　2) 総合論文集（62，63，64，65，66，67の各号）登載論文52編，432ページ，発行部数84 700部，3) 別冊論文集（60・3—1，61・3—1，3—2，3—3，65・3—1，3—2，3—3，66・1—1の各号）8編，266ページ。発行部数：5 500部。

（4） 水理委員会

委員長　安芸　皎一　　委員および幹事　50名
1) 委員会（35.6.12～35.2.5）2回，2) 第4回水理研究会講演会（34.6.12）広島県庁講堂，3) 34.9.30「水理学研究の現況」第8集131ページを発行，　4) 35.2.5 第6回国際水理学会議報告講演会を土木学会会議室において開催。

（5） コンクリート常置委員会

委員長　吉田徳次郎　　委員　50名
1) 委員会（34.4.16～34.12.11）第7回～第12回開催しコンクリート標準示方書および解説について研究が進められ，また「高炉セメントに関する調査」について小委員会を開催した（34.11.20）。2) 異形鉄筋に関する懇談会開催（35.3.18）。

（6） フライアッシュ小委員会

委員長　国分　正胤　　委員　19名
34.9.1 および 35.1.29 開催し，前年度より研究された共通試験報告をとりまとめ学会論文集として発行することになった。34.9.1 電源開発奥只見建設所の工事見学が行なわれた。

（7） 耐震工学委員会

委員長　沼田　政矩　　委員および幹事　23 名

1) 委員会（34.4.6～35.3.22） 第25回～第35回開催し，主として第2回世界地震工学会議に関する事項について協議し，また，水道施設，港湾構造物，橋梁，鉄道橋等の耐震設計について回を追って所見発表があった。 34.12.10～13 のイタリアのメッシナ地震工学会議に久保委員を派遣。 災害調査について耐震工学委員会内規が決定された（8月）。2) 国鉄委託「構造物の耐震設計研究委員会」を別に組織して委託研究をすることとなった。3) 第3回地震工学研究発表会（34.9.17～18　土木学会会議室において）。

（8） 海岸工学委員会

委員長　本　間　　仁　　顧問，委員および幹事　34 名

1) 委員会　34.5.14　8.3.　11.7.　35.2.29　4回，2) 第6回海岸工学研究発表会　34.11.6～7　新潟市において開催，3) 英文論文　第2巻（1959）発行。

（9） 論文抄録委員会

委員長　左合　正雄　　委員および幹事　45 名

34.6.30　の委員会において第6集発行の基本方針を立てたが，資料の整理，経費の関係で発行は来年度に持越した。

（10） 橋梁・構造委員会

委員長　福田　武雄　　委員　18 名

1) 委員会（34.7.11），2) 第6回「プレストレス構造に関する研究発表会」（34.9.14）日本学術会議講堂において開催。

（11） 土木賞委員会

委員長　沼田　政矩　　委員　27 名

1) 第1回（35.2.3）委員長互選，委員会運営方針と審査方法，作業日程を決定。2) 土木賞規約制定委員会の改訂骨子を取り入れて運営することとなった。3) 審査を依頼された学会編集部は部門ごとに数次会合して候補論文推薦に当った。 4) 主査委員会（35.3.22）において推薦論文を調整し予選投票にそなえた。

（12） 土木賞規約制定委員会

委員長　星　埜　　和　　委員　17 名

1) 第1回（34.11.12）土木賞授与規程のうち主として土木賞の種別およびその性格，授賞論文の選考範囲および方針，土木賞委員会の構成につき立案することとなった。2) 第2回～第5回（34.11.27～35.3.20）において第1回の方針につき審議を重ね一応案がまとまったので，その骨子を土木賞委員会の運営に取り入れて試みることとなった。

（13） 災害対策研究委員会

委員長　岡田　信次　　委員および幹事　33 名

1) 第1回（34.12.22） 委員会設置の主旨，目的，運営方法，その他について協議。 2) 幹事会第1回～第3回（35.1.12～3.7）開催し，それぞれ資料を収集した。

（14） 土木技術者資格研究委員会（34.12.17） 土木士制度制定に関する打合会を開催し本委員会を設置することを決定。

（15） 海外連絡委員会

委員長　田　中　　豊　　委員および幹事　11 名

1) 34.12.23 開催し，1960 年度国際会議派遣代表候補者を選考した。2) 現委員構成を発展的解消し，委員会の事業拡張の主旨をもって新委員の構成をすることとなった。

（16） 長大橋梁および高張力鋼鉄道橋研究委員会（国鉄委託）

委員長　田　中　　豊　　委員および幹事　25 名

本委員会（34.8.6～35.3.28）4回，小委員会数回を開催し34 年度委託の研究報告を終了した。

（17） 構造物の耐震設計研究委員会

委員長　沼田　政矩　　委員および幹事　40 名

本委員会（34.9.18～35.3.17）7回，その他専門部会を開催し，34年度委託研究を終了報告した。

6. 本部の行事

（1） 第14回年次学術講演会（34.6.13～6.14・広島大学において）

1) 発表論文：応力 21，土質および基礎 45，水理 39，コンクリート 21，橋梁・構造 49，鉄道 9，道路 8，都市計画 3，港湾 6，河川・砂防 5，発電水力・ダム 13，材料 3，衛生 9，施工その他 4，合計 235 編。参加者延べ約 1300 名。2) 講演概要　第Ⅰ部～第Ⅴ部発行。3) 中国四国支部の企画により本講演会の各部門による一般報告を会誌7月号に登載された。

（2） 懇談会（34.6.13・広島市農協ビル）　246 名

（3） 見学会（34.6.15～16）

A 班	出雲路コース	64 名
B 班	防長路コース	71 名
C 班	四国路コース	46 名
D 班	広島市内および近郊コース	40 名

以上各項は通常総会とともに中国四国支部の全面的企画実施によることを付記する。

（4） 関東地区常議員9名改選決定（34.5.18）

（5） 第4回水理研究会講演会（34.6.12・広島県庁講堂）

発表論文 20 編。講演概要発行。参加者約 130 名。

（6） 夏期講習会（34.8.27～29・日本大学法学部講堂）

「トンネルと掘削工法」　参加者 755 名

本講習会開催に当り 34.4.14　5. 8　8.26 の3回にわたり準備打合会が行なわれた。

（7） 第9回応用力学連合講演会（34.8.29～31・名古屋）開催。

（8） 第6回橋梁・構造工学研究発表会（34.9.14）

「プレストレス構造に関する研究」日本学術会議において開催。出題17編。参加者約 130 名。

（9） 第3回材料試験連合講演会（34.9.15～16）

日本学術会議にて開催。出題 92 編，参加者約 240 名。

（10） 第3回地震工学研究発表会（34.9.17～18・土木学会会議室）講演概要集発行。発表論文27編，特別講演2編，参加者 148 名。

（11） 秋のエキスカーション（34.10.23～24）

黒部川第四水力発電所見学，参加者 103 名。

（12） 第6回海岸工学研究発表会（34.11.6～7・新潟市）

発表論文 22 編，講演集発行。懇親会，見学会，参加者延べ 240 名。

（13） 学術会議会員懇談会（35.1.20・東京）

（14） 国際水理学会会議報告講話会（35.2.5・土木学会会議室）

（15） 第1回原子力研究総合発表会（35.2.11～13・学士会館）

7. 各支部行事

（1） 北海道支部

1) 34.6.22 役員改選，2) 34.8.21 橋梁と道路の見学会参加者 48 名，3) 34.9.25 幹事会および技術資料編集委員会の合同会，4) 34.10.27 支部講演会「集中配置工法によるプレストレスト コンクリートについて」参加者約 100 名。5) 35.2.22～23 研究発表会 19 編および講習会3題。

（2） 東北支部

1) 34.7.4 常磐地区見学会　参加者 73 名，2) 34.7.22 役

員改選，3) 34.10.14 大倉ダム見学会　参加者 70 余名，4) 34.10.2～11.24 巡回映画会　6 カ所および講演会　参加者約 9000 名，5) 35.5.22 技術研究発表会，論題 10 編 参加者 140 名。

（3） 中部支部

1) 幹事会　5 回 (34.4.25, 5.15, 6.9, 7.22, 8.11)，2) 役員会　1 回 (34.4.25)，3) (a) 見学会 (34.5.18) 吉田大橋ならびに豊川放水路　参加者 113 名，(b) 34.7.24.名神高速道路　参加者 102 名，4) 講演会 (34.6.25)「黒部川第四水力発電所建設工事および施工の概要について)，5) 映画会「黒部峡谷」地底の凱歌」参加者 350 名，6) 第 9 回応用力学連合講演会 (35.8.29～31)，7) 研究発表講演会 (35.1.29) 出題 13 編，8) 支部年次大会 (35.3.12～13) 講演会，見学会

（4） 関西支部

1) 幹事会　11回 (34.6.5, 6.22, 7.22, 8.24, 9.22, 10.20, 11.21, 12.19, 35.1.18, 2.18, 3.21)，2) 商議員会　4 回 (34.4.18, 6.22, 11.21, 35.3.21)　3) 第 32 回総会，役員改選，会員懇視会 (34.5.18)，4) 講演会，講習会

1. 総会講演会および映画会 (34.5.18) 題目 3 編　参加者 71 名。
2. OR の土木工学への応用に関する講習会 (34.8.10) 題目 5 編　参加者 307 名。
3. アルバートソン教授特別講演会 (34.9.5)　題目 2 編 参加者 53 名。
4. 新しい衛生工学に関する講習会 (34.9.5)　題目 7 編 参加者 184 名。
5. 臨海工業地域造成に関する臨時講演会 (34.10.10) 題目 4 編　参加者 59 名。
6. 学術講演会 (34.11.8) 一般講演 46 編，特別講演 1 編　参加者 203 名。
7. バウルレオンハルト PS コンクリートに関する講演会 (34.11.13) 題目 2 編　参加者約 250 名。
8. 橋梁工学の最近の諸問題に関する講習会(34.11.30～12.1) 題目 11 編　参加者 343 名。
9. 海外事情講演会 (35.1.18) 題目 3 編　映画 1 参加者 141 名。
10. 道路工学に関する講習会 (35.3.28～29) 題目 7 編 参加者 472 名。

5) 技術講座

第 1 号 (34.10.22)「ダム工事の施工計画」参加者 119名。
第 2 号 (34.11.7, 11.20, 11.24)「塑性設計法」参加者 80 名。
第 3 号 (34.12.7～3)「日本水害史」参加者 55 名。
第 4 号 (35.3.15, 3.17, 3.21)「浸透および透水に関する問題点」参加者 34 名。

6) 見学会

第 1 回 (34.6.27) PS コンクリート KK 伊丹工場，名神高速道路　参加者 197 名。
第 2 回 (34.11.14～15) 十津川方面 4 カ所 参加者 31 名。
第 1 回学生見学会 (34.12.12)　第 2 阪神国道工事，大阪市地下鉄工事　参加者 128 名。
第 3 回 (35.3.19) 大阪市津守下水処理場，中浜下水処理場　参加者 67 名。

7) 研究会

1. 新しい工事材料に関する研究会 (35.2.1) 参加者 112 名。
2. 工事研究会 (35.2.18)「第二阪神国道の計画と施工について」参加者 93 名。

（5） 中国四国支部

1) 土木学会通常総会，第 14 回年次学術講演会，会員懇親会，見学会の諸行事 (34.6.13～16)，2) 第 4 回水理研究会 (34.6.12)，3) 第 11 回学術講演会 (34.12.2～3) 岡山県庁　題目 18 編　特別講演 3，4) 見学会 (34.12.4) 河川，橋梁．港湾，P C 工場その他。5) 映写会 (35.1.19) 四国地区　参加者 150 名。講演および映写会 (35.1.20) 中国地区　参加者 100 名。

（6） 西部支部

1) 幹事会 (34.5.11)　2) 第 1 回見学会 (34.6.15) 日向神ダム工事，参加者 206 名。3) 夏期講習会 (34.8.21) 題目 6 編　参加者 131 名。4) 講演会 (34.11.19) 題目 3 編。5) 第 2 回見学会 (34.11.20)　a) 日南線建設工事　参加者 80 名。b) 諸塚ダム工事　参加者 63 名。6) 冬期研究発表会 (35.2.12) 題目 14 編　参加者 141 名。7) 支部総会 (35.3.11) 記念講演，役員改選，映画会。

8. 会員年間統計 (34.4.1～35.3.31)

年＼会員＼月	正員	特別員 1級A	特別員 1級B	特別員 1級C	特別員 2級	特別員 3級	名誉員	賛助員	学生員	合計
34.3	13 146	17	12	69	109	96	26	30	1 157	14 729
34.9	13 463	17	12	71	111	94	30	30	937	14 765
35.3	13 526	17	17	78	110	103	26	30	1 135	15 042

昭和 34 年度決算報告

末森専務理事より説明があり了承された。

I 普通会計　(単位：円)

収入の部 科目	決算額	支出の部 科目	決算額
I 会費	15 592 271	I 総務費	10 072 783
II 諸刊行物収入	8 471 391	II 会議費	411 254
III 雑収入	10 164 053	III 負担金	827 810
IV 繰入金	1 703 444	IV 支部交付金	1 569 225
		V 事業費	22 919 080
		1. 会誌発行費	9 405 581
		2. 論文集発行費	3 782 781
		3. 土木工学論文抄録刊行費	103 913
		4. 会員名簿刊行費	2 853 467
		5. 諸図書刊行費	3 795 351
		6. 講演および講習会費	1 409 903
		7. 調査および研究費	1 332 287
		8. 諸費	235 797
合計	35 931 159	合計	35 931 159
		収入支出差引	0

貸借対照表　(35.3.31.現在)

借方		貸方	
定期預金	1 186 548	普通会計繰越額	2 383 531
普通預金	1 461 390	事業資金	2 440 681
信託預金	137 696	基金	6 912 106
振替貯金	281 971	引当金	837 408
現金	87 572	元入金	9 434 972
有価証券	8 111 799	前受金	536 409
建物および諸施設	8 037 241	仮受金	184 701
什器および備品	1 397 731	預り金	712 563
棚卸図書	1 075 186		

売掛金	27 410		
会費未収入金	1 280 935		
前払金	240 476		
立替金	116 416		
合計	23 442 371	合計	23 442 371

引続き末森専務理事より**規則の一部改正**（正員会費1 000 円を 1 200 円，学生員会費 500 円を 600 円に改正）について報告があり，会長より**名誉員の推挙**（**口絵写真** 参照），**土木賞の授与**（本文 7 ページ参照）が拍手のうちに行われ，沼田土木賞委員長による土木賞授与の経過報告があり（本文 7 ページ参照），退任される田中会長より**昭和 35 年度新任役員の紹介**が行われた。このあと田中会長より交通問題と土木事業と題して**会長講演**（本文 1 ページ参照）があり予定どおり11 時 30 分総会を終了した。

懇親午餐パーティー

5 月 28 日 12 時より早稲田大学大隈会館において参加者 139 名を得て立食形式で盛大に行われた。田中，沼田新旧両会長をはじめ滝山新副会長，青木元会長，土木賞受賞者を代表して奥村東大助教授などの挨拶があり，なごやかな懇談が熱心に続けられた。

第 15 回年次学術講演会

第 1 日（5 月 28 日）午後より早稲田大学で各部門一せいに行われた。講演総数 221 編の多数となったため今年から講演時間を 1 人 15 分に制限した。早大の授業の関係で教室が集中して手配できず，会場がばらばらとなったため参加者に非常な迷惑をおかけした結果となったことを紙上より深くお詫びいたします。

参加者も過去のレコードを破る延べ 1 500 名という盛況で，本年より始めた部門綜合講演は各会場とも 250 名平均の聴講者がつめかけていた。

とくに夫人同伴の会員が仲よく講演を聞いておられる様子は誠にほほえましい光景であり，年に一度の学会のときくらいは大いに奥様ご同伴で参加して頂きたいもので，学会当局としてもこの傾向が強くなれば御婦人方へのサービスを十分考えねばならないと考える。

講演会のあり方についても今後いろいろ検討の必要がありそうに思えるので御意見があればどしどし申出て頂きたいと思う。講演内容は一般報告として 10 ページにまとめて掲載した。以下各部門別の講演数，司会者および聴講者の概数を示す。とくに部門綜合講演者，司会者，一般報告執筆者の各位には御多忙のところ御迷惑をかけ誠に申訳なく，紙上をかりて厚く御礼申上げます。

第 I 部門（土質および基礎工学 43）

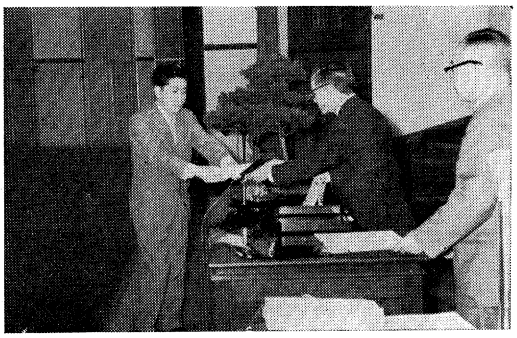
司会者：渡辺　隆，後藤正司，森　麟，河上房義，山口柏樹，谷本喜一　（聴講者合計 360 名）

第 II 部門（橋梁および構造学 43）

司会者：倉田宗章，赤尾親助，西脇威夫，橘 善雄，岡内 功，吉村虎蔵　（聴講者合計 420 名）

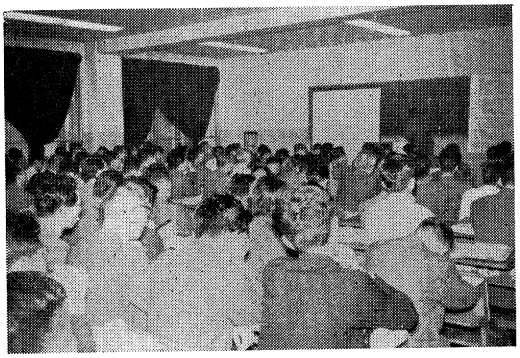
第 III 部門（水理学および水文学 35，港湾 9）

土木賞授賞式

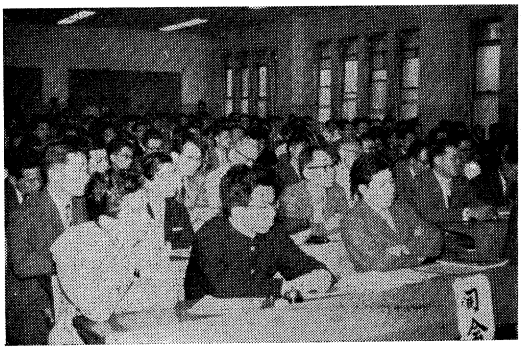


懇親パーティー

年次学術講演会場



部門綜合講演会場



司会者：嶋　祐之，田中　清，杉尾捨三郎，春日屋伸昌，林泰造，堀川清司　（聴講者合計 240 名）

第IV部門（コンクリート 19，材料 2，道路 11，都市計画 3，鉄道 11）

司会者：山崎寛司，樋口芳朗，伊吹山四郎，加賀美一二三，多谷虎男，毛利正光　（聴講者合計 300 名）

第V部門（応用力学 18，発電水力およびダム 6，衛生工学 12，河川および砂防 8）

司会者：後藤尚男．小野一良，巽　巌，石川時信，粟津清藤．角谷省三　（聴講者合計 180 名）

見　学　会

A班（参加者 77 名）：京葉道路，東京電力千葉火力発電所，川崎製鉄千葉製鉄所，千葉港埋立工事，房総半島一周。

B班（参加者 108 名）：首都高速道路，東京都地下鉄，砂町下水処理場の各建設工事現場。

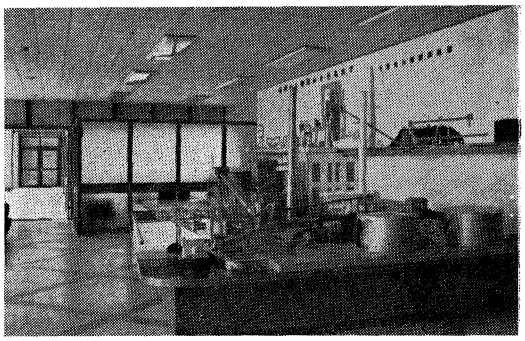
C班（参加者 44 名）：いすゞ自動車，川西モーターサービス，小松製作所，三菱日本重工業の各工場。

A 班（35.5.30～5.31）

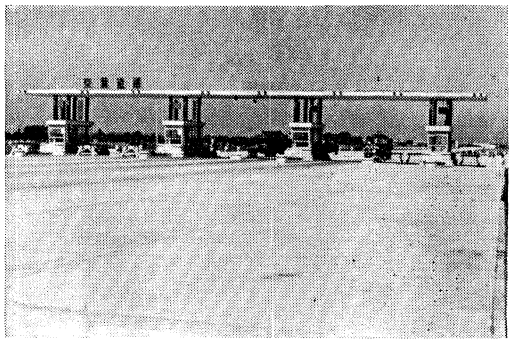
8時 30 分両国駅前集合，バスおよび乗用車2台（丸東製作所提供）に分乗して京葉道路に向う。車中道路公団の工事担当者から本道路の概要について説明をうかがった。去る5月1日より営業を開始した本有料道路は延長 8 886 m，巾員 16.0 m の有料道路で工費 18 億 1 500 万円，東京・千葉を結ぶ重要幹線としてその利用度は大きい。当初予想利用台数1日 3 000 台を軽く2倍以上突破し1日平均 8 000 台，最大 10 000 台が通過するとのこと，償却予定も 15 年に短縮できる見とおしとのことであるが，管理者の悩みの種は交通事故で1日平均3件は起るとのことである。

両側 200 m は広告を許可しないという近代道路を，わずか 10 分ほどで千葉県へ駆け抜け，せめてもう少し長ければという一同の歎声をのせて船橋より一路千葉市へ向った。予定どおり 10 時 30 分千葉県庁へ到着，片岡土木部長より土木より見た千葉県勢の概要と，石原開発部長より開発計画の説明を伺った。京葉臨海地帯造成を中心に着々と工業県に生まれ変りつつある千葉県の現状に一同深い感銘をうけつつ心づくしの冷い茶菓にのどをうるほし，土木部長はじめ関係者の同乗をえて東京電力千葉火力発電所へ 11 時に到着，ホールにおいて，山本次長の説明をうけ，本発電所の建設記録映画を観賞した。総面積 116 200 坪の用地造成を千葉県営工事をもって 29 年 11 月より 30 年9月末に完了し発電所を建設したもので，1号機（32.4.20．完成 125 000 kW），2号機（32.11.1．完成 125 000 kW），3号機（34.1.22．完成 175 000 kW），4号機（34.8.18．完成 175 000 kW）出力合計 600 000 kW をほこる大火力発電所である。本館の屋上より石炭埠頭，貯炭場を眺めていると石炭不況という言葉が信じられないような消費量である。時間の関係で心を残しながら隣り合わせの川崎製鉄千葉製鉄所に 12 時着，昼食をしながら上野重役より製鉄所の建設状況について説明を伺う。26 年2月建設に着手以来，906 000 坪の敷地に 450 億円を投じ溶鉱炉3基，平炉6基，分塊圧延機，ホット ストリップ ミル，コールド ストリップ ミル など付帯設備一式を完成し銑鋼一貫作業を行っており，年間 150万 t の生産をあげているとのことで，将来計画が完了すれば 300 万 t の生産が可能とのことである。引続き工業用水の問題について印旛沼よりの引水計画について下鳥所長より詳細な説明をうけた。現在各方面で当面している重大問題なだけに活発な質問もあり熱心な応答が続く。このあと千葉地区埋立工

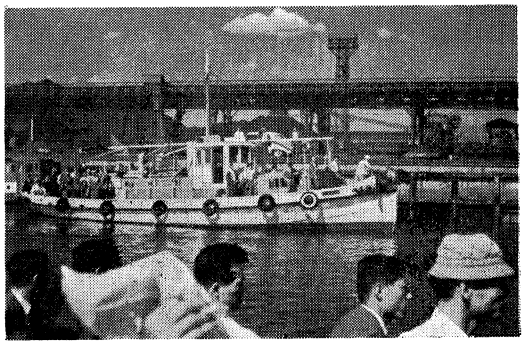
東電千葉火力発電所の設備模型



京葉道路ゲート



川鉄正面岸壁より船で五井地区へ



事状況の全般を西海千葉港建設局長からお話を伺った。現在川鉄，東電をはじめ155万坪を埋立て終了し，既着工，着工決定のもののみでも五井，市原地区195万坪，船橋，市川，幕張地区万325坪を予定しており，並行して千葉港整備工事も着々と進んでいるとのことである（**口絵写真** 参照）。続いて広大な製鉄所内部を1時間ほどで駆け足見学する。

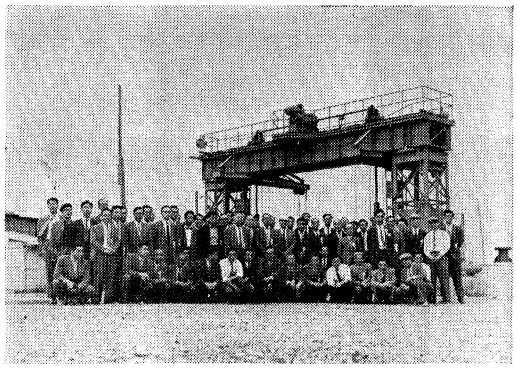
1600° の高熱で溶解され混銑炉，平炉，造塊，均熱炉，分塊圧延のコースで完全にオートメ化された製鉄過程に一同暑さも忘れて感歎の声をあげる。ゆっくり見れば1日かかりそうな設備であるが，案内者の要領のよいリードで重点的な視察を終え，熱にほてった身体を正面岸壁から千葉港の御厚意によるランチに乗り，船上より埋立工事の状況を見ながら五井地区旭ガラス工場へ着きバスに乗りかえて宿泊予定地の天津へ向った。半島を横断し外房の目にしみ入るような海の色に心を奪われながら18時30分天津着，中屋，蓬莱屋の2軒の宿に旅装を解き，一汗流して中屋旅館広間における千葉県主催の懇親会に臨んだ。片岡土木部長の歓迎の挨拶，末森専務理事の御礼の挨拶ののち，楽しい懇親の一夜が開かれた。宿の女中連による歌，踊りなどに拍手がわき，会員ののど自慢にヤジが入り乱れ，和気あいあいのうちに会を閉じた。

翌31日も快晴，今日の予定は昨日と違い文字どおりの観光コースである。8時宿舎を出発，小湊へバックして日蓮上人誕生の地である延生寺を訪れたのち船に分乗して鯛ノ浦へ向う。船頭のまく餌の餌にむらがる巨大な鯛の群にカメラのシャッターがしきりと鳴る。見物を終えて宿の番頭氏による講談〝南総里見八犬伝〟の素人ばなれした名調子に聞きほれながら一路白浜へ……。野島崎灯台を見て船で海女の生態を眺める。底にガラスが貼り込んである遊覧船から見下す海底は，獲物を採る海女の姿とともに，なかなか神秘的である。終って全員の希望によって海女の撮影会が浜辺で開かれた。

慎重派，パチパチ型，やじ馬型など，さまざまのカメラスタイルに時のたつのも忘れるほどであった。再びバスに乗り館山へ向ったところでバスのオイルタンクが故

白浜における海女の撮影会

浜金谷フェリーボート発着場にて



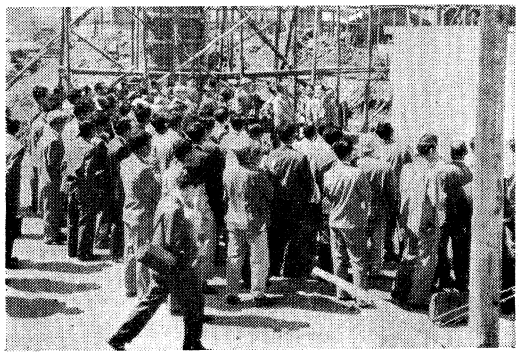
障，1時間ほどストップし浜金谷へ着いたのは16時すぎであった。最近完成した浜金谷～浦賀間のフェリーボート発着場で記念撮影をして一路帰途につく。予定よりやや遅れ東京駅へ19時20分ころ到着，解散した。

本見学会を終るに当り御協力を賜わった千葉県当局をはじめ，日本道路公団，東京電力KK，川崎製鉄KK，KK丸東製作所，KK宮地鉄工所などの関係各位に厚く謝意を表する次第である。

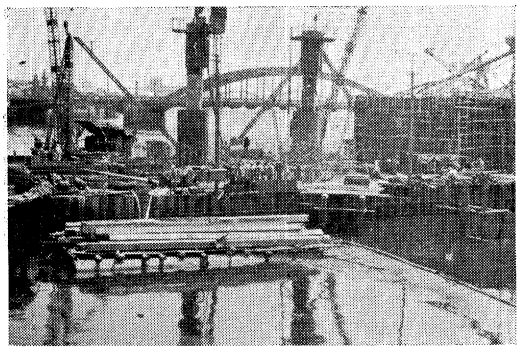
B班（35.5.30）

昨日の天候とはうって変った，夏至を思わせるような快晴となった。浜松町駅前集合，参加人員は108名，バスの都合で2回に分けて首都高速道路1号線（羽田～上野）建設工事現場到着，早速首都高速道路公団技術部計画課の村山幸雄，同施設課長の小林　制，同建設事務所工事課長の長光喜一の諸氏により，首都高速道路公団のあらまし，計画道路網および工事内容について説明があったのち，現在施工中の西松建設KK受持区域を公団の方々と，西松建設KK土木設計課長の高橋敦夫氏の説明を聞きながら，次のKK森組の現場に到着。ここでは無音杭打機が据えられてあった。残念ながら休止していたが同社取締役の渡辺秀幸氏から機械についての説明を伺った。ついでバス2台に分乗して，新橋～(高速道路通過)東京駅～日本橋～秋葉原～上野～吾妻橋と途中公団の方

首都高速道路工事現場にて



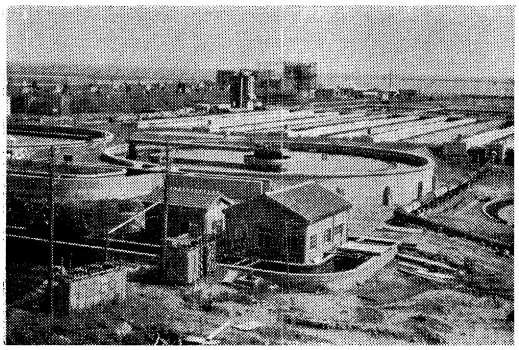
地下鉄隅田川ケーソン工事



の予定線の説明，1号線は築地川を干して，川底の下に道路を通しまた旧に復する。また総武線と鉄道高架橋と昭和通りが交差するところの空間に昭和通りと平行に高速道路を建設する等，何年か先には各種の高速道路ができ上るわけである。高速道路を絶対に必要とする交通量を目のあたり見聞きしながら吾妻橋アサヒビールに到着。2階会場の窓からは都営地下鉄隅田川工事現事が一目で見渡せた。都交通局高速電車建設部長・土木学会理事の小倉宏三氏が高速電車の概要，計画，工事現場の説明，ついで隅田川工事受持の白石基礎工事KK社長の白石　泰氏のケーソン工法の説明と，それに対する質問に答えた。その後工場直送のビールで喉をうるおし，昼食をしたのち各班に別れて工事現場を見学した。参加者諸氏はケーソン工法について，熱心に現場職員に質問していたが，時間となったので次の最終地へ向った。東京都水道局砂町下水処理場では，モダンな4階会議室へ案内された。ベランダ風のホールからは，処理場全景とそのうしろの東京湾，房総の山々が見られる。都水道局下水道本部技術部設計課長の本郷文男氏が，現在までの同所の歩み，現在の工程，将来の抱負などについて説明があり，同処理場長の中村　亘氏の案内で見学した。大変な暑さに参加者一同やや疲労の様子であったが，高速道路，隅田川ケーソン工法，下水処理場と有意義な見学に満足されて4時 40 分東京駅で解散した。

終りにあたり見学会行事に御協力をいただいた，首都

砂町下水処理場



高速道路公団，西松建設KK，白石基礎工事KK，東京都水道局下水道本部の方々に深く感謝する次第である。なお定員 50 名（バス1台）の予定が110名に増大したために，いろいろの手違いがあり，また定員超過のためお断りした方々におわびを申し上げます。

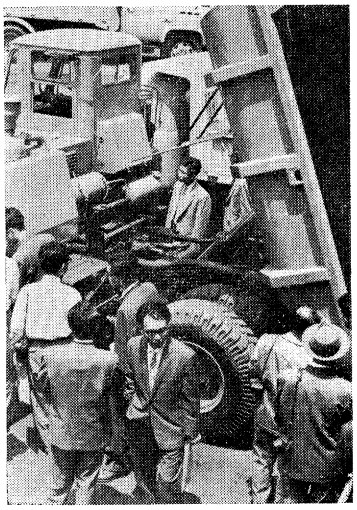
C 班（35.5.30）

戦後の建設工事はますます大規模になり，したがって機械化施工法も進歩発展しつつあるとき，土木技術者として建設関係の自動車機械類の製作工場を見学することは大きな意義がある。会員 44 名は川崎駅前に9時集合，いすゞ自動車提供の大型バスに乗り予定の見学コースに入る。

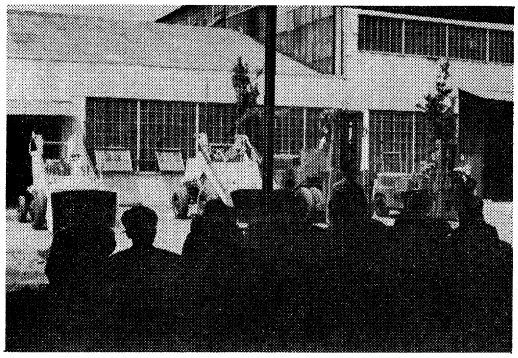
いすゞ自動車にて説明を聞く

まずエンジン製作の流れ作業で有名ないすゞ自動車KK川崎工場を訪れる。小山管理課長から工場のおいたち概要の説明を受けて工場内に入る。2本の組立ラインははるかに 100 m 以上前方まで続いていて，それぞれの場所で自動車の付属品が取りつけられる。最後にタイヤも取付けて組立が一応終り，ラインを離れてテストに移る。次の建物に入ると部品の機械加工をしていて各種の新しい工作機械類が目につく。ここを辞して再びバスで川西モーターサービス東京工場に乗入れる。ここでは自動車工場でできあがったシャシーをダンプトラック，タンクローリ，バキューム車その他特殊車に架装している。五十川工場長よりダ

川西モーター サービス工場にて
ダンプ カーを見る



小松製作所にて



ンプのホイストシリンダー，三転ダンプの作動原理その他の説明を聞いたのち工場内のダンプカーを身近に手にふれ見学する。次にもと来た産業道路を車でもどり，煙突の林立する川崎工場地帯の中にあるKK小松製作所川崎工場に向い工場クラブの青畳にくつろぎ昼食ののち児玉工場長その他の方々から工場のおいたち，概要その他の説明を伺い新型機の実演を見せていただく。本工場は自動車等のマスプロ工場のようなはでさはないが機種型式が多いことや，組立の各段階がよく見られる。ここではディーゼル エンジンをはじめ各種建設機械，雪上車，農民車をも製作していた。工場設備の見学を終り三菱日本重工KKの御厚意によるバスで同社の下丸子および大井工場に行く。下丸子工場は終戦とともに賠償指定を受け鍋釜を作る悲運だったのが現在ではブルドーザ，ダンプトラック等を製作している。茂木営業課長の説明で予備知識を得て工場を見学，一区画生産制やノルマを2日間で遂行するやり方などコンサルタンツに依頼して生産の合理化がなされている。また外国より取りよせたプラノミラー，ジクミルまた主動が伝達系統に使われるインボリュート，テーバート・フグライン部を一気に加工する専用機やトラック リンクの孔ぐりを，一度にセットしたまま5工程その加工が完了する専用加工機などを一巡して見る。機械工場の裏手にある発動機運転場では工場で製作された各種の建設機械が居並びそれらを運転して見せて下さった。なお大井工場はちょうど停電のため組立作業をみることができなかったことは残念だった。

伊勢湾台風，三陸の津波等の復旧作業に建設機械が大いに活躍されることであろう。終りに本見学会に御協力いただいたいすゞ自動車KK，川西モーターサービス，KK小松製作所，三菱日本重工業KK等関係各位に厚く謝意を表し各工場の従業員各位の御健闘を祈る。

◎第1回新旧合同理事会 （昭.35.6.23）出席者：沼田，田中新旧会長，富樫，滝山両副会長，尾之内，岡本，小西，佐藤，田中(行)，林，八十島，末森専務の各理事西嶋前理事。

議題：（1）理事の会務分担を各委員会に分掌する案が出たが，土木学会規則第5章，第17条～第23条の部制がある以上は，これを遵守することにして，部長だけを次のとおりに決定し，その他は次の理事会で決定する。

総務部長　川村満雄
経理部長　阿部一郎
編集部長　八十島義之助
研究連絡部長　林　泰造
調査部長　佐藤　肇

（2）各種委員会委員交代および追加委嘱

a）学会誌編集委員会（新任）

委員長　斎藤　義治　建・道路局高速道路課長
委　員　井前　勝人　建・計画局下水道課
〃　久野　悟郎　日本道路公団名神高速道路部
〃　相良　正次　建・道路局国道課
〃　嶋　祐之　東京大学土木工学教室
〃　西田　俊策　運・港湾局建設課
〃　林　四郎　運・民鉄土木課
〃　林　茂樹　日本国土開発KK
〃　谷田沢正治　建設技術研究所
〃　横戸　実　建・河川局計画課
〃　渡辺与四郎　経企庁総合開発課
〃　山門　明雄　法政大学工学部
〃　増田　重臣　岐阜大学土木工学教室
〃　佐藤　一成　西松建設千駄谷研究所
〃　山本　安一　鹿島建設土木課

b）論文集編委員会（新任）

第1部　久保慶三郎　東大生研
竹間　弘　中央大学
相良　正次　建・道路局
第2部　西原　巧　建・河川局
林　泰造　中央大学
高橋　裕　東京大学
中山謙治　電源開発
吉村　真事　運・港湾局
第3部　永盛　峰雄　建・土研千葉支所
久野　悟郎　道路公団
第4部　柳田　力　建・土研
土屋　雷蔵　建・道路局

c）災害対策委員会幹事追加

岡崎　忠郎　建設省河川局治水課

d）プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂小委員会（追加）

委　員　板垣　隆義　北海道ピーエスコンクリートKK
幹　事　船越　稔　東大大学院

e）国鉄委託・構造物の耐震設計研究委員会（追加）

幹　事　永尾　勝義　国鉄東京幹線工事局
〃　松野　操平　日本道路公団

f）水理委員会幹事長交替

(新任) 千秋　信一　電力技術研究所

（3）各支部役委員嘱

a）関西支部役員（35.5.24. 着）

支部長　近藤　勇　神戸高速鉄道KK常務取締役

b）東北支部役員

支部長　樋浦　大三　東北大学教授
常議員　藤原　　孝　国鉄東北支社調査役
〃　　河上　房義　東北大学教授
幹事長　伊藤　直行　東北地建企画室長

c）西部支部役員

支部長　田中　俊徳　福岡県土木部長
（石井　譲氏転職につき）

（4）日本学術会議その他へ委員を推薦

a）橋梁・構造工学研究連絡委員会

福田武雄　小西一郎　国分正胤　田原保二　友永和夫
平井　敦

b）溶接研究連絡委員会

成瀬　勝武

c）力学研究連絡委員会

石原藤次郎　岡本舜三　最上武雄　奥村敏恵

d）水力学・水理学研究連絡委員会

石原藤次郎　　本間　仁　　嶋　祐之

e）日本地球物理学連合　連絡幹事

千秋　信一

（5）関東地区土木賞委員4名は，他地区推薦委員の部門と照合して会長，副会長が次回までに相談すること。（6）来年度通常総会および年次学術講演会開催について，慣例によれば中部地区の順となるので中部支部の意向を照会すること。（7）本年度毎日学術奨励賞および僧成会学術奨励金の応募申請については編集部で相談してもらって，各大学および研究所に照会することとなった。（8）各大学に道路工学講座を設置の要望があるので，学会としては道路工学および土質，基礎工学講座をあわせ建議することとした。（9）5月中の会員入退会を承認。

報告：（1）5月31日における会計報告および図書申込状況。（2）各種委員会の報告（別記）

◎各種委員会

（1）長大橋梁および高張力鋼鉄道橋研究委員会(昭.35.5.27，石川島重工業ＫＫ技術研究所会議室）出席者：田中委員長，青木，成瀬，小西，中村，友永，埴田(代上野)村上(代沢井)，平井(代岡内)，奥村(代西野)，田中(五)(代長谷川）の各委員，伊藤(学)，西脇，大宮，西村，菊池，伊藤(文)，田島各幹事。議事：1）高強度鋼材についてのすみ肉溶接疲労試験結果について小西委員説明，2）埴田委員提出の Weldability of Steel (Welding Research Council) について，3）35年度研究計画：設計示方書解説，製作示方書の作成，長大橋の比較設計，構造細部についての検討，実験計画等について討議。

（2）第1回文献調査委員会（昭.35.6.7）出席者：久野，樋口新旧委員長，城所，佐藤，田中，丹，山村(代)，西原(代)，徳田，高野，安芸，大西，今岡，石原の各委員，日野新幹事および津野，伊能，土屋，片山（代）の退任委員。議事：1）45巻7号登載抄録および目録の選定，2）新委員の紹介，3）35年度の委員会の活動，4）各委員の担当文献の確認，5）その他。

（3）第5回災害対策幹事会（昭.35.6.8）出席者：岡田委員長，三木，安芸(代宮下，吉田)，久田，三浦，君島(代北原)，丸山の各幹事。議事：1）災害対策の研究テーマを持ちよることになっていたので，三浦幹事より a）災害の発生確率の統計的研究，b）同上確率の公共事業計画への適用方法の研究，について討議された。2)本委員会の運営方針が確然としないので，三木(東大)，丸山(科学技術庁)，岡崎（建・河川局治水課）の三幹事により起案することとなった。

（4）第2回プレストレスト　コンクリート設計施工指針改訂小委員会（昭.35.6.8）出席者：国分委員長，菅原，宮崎(義)，山田，猪股，川口，木村(代清野)，小寺，三浦，樋口，松野，今村，中村，沓掛，宮崎(昭)，小田，野口，高倉（代板垣）の各委員，井上，船越の両幹事。議事：1）ＰＣ改訂原案　19条～25条まで逐条審議，2）高倉委員は板垣隆義氏（北海道ピーエス技術部長）と交替する，3）次回委員会を6月14日（火）13.30とする。

（5）第1回会誌編集小委員会（昭.35.6.10）出席者：斉藤委員長，大西，浅井，相良の各委員。協議事項：1）斉藤委員長より新年度の編集方針について相談，2）次回編集委員会に解決すべき点の案を出す，3）45巻7号の内容を確認，4）その他。

（6）第3回プレストレスト　コンクリート設計施工指針改訂小委員会（昭.35.6.14）出席者：国分委員長，菅原，山田(代塚山)，猪股，三浦，川口，小寺，樋口，松野，今村，丹，中村，上前，宮崎(昭)，小田，野口，板垣の各委員，井上，船越両幹事。議事：1）原案26条～34条まで逐条審議，2）第1原案でもれている箇条（クリープ，乾燥収縮，許容応力）を補充するため特別委員会を設け至急起案してもらう，この特別委員会の構成は，猪股，菅原，小寺，清野，白木，松野，沓掛，宮崎（昭），野口，井上，船越，の各氏とする。なおこの委員会の開催日は6月22日（水）14～16時とする，3）第1原案の審議を終了し，第2原案ができたら，鋼材関係の専門家を招き意見を伺う。この招集先は，住友電工，神鋼鋼線鋼索，高周波熱錬，神戸製鋼，鈴木金属の5社のほかに鉄研材料研究室の富田氏（大和　久氏に連絡）を追加とする，4）次回委員会は6月29日（水）午後2時から学会会議室において開催する。

（7）第38回耐震工学委員会（昭.35.6.15）出席者：沼田委員長，岡本，友永，那須(代)，寺島（代遠山），篠原(清，代二ノ丸)，神谷，畠山，久保，石井(代林)，高田，水越(代御牧)の各委員，宮崎氏。議事：1）WCEEについて，プログラムの内定にともない口頭発表者の調整を行なった。会議のせまったことを学会誌に広告する。朝日イブニングニュースの原稿整理を高田委員に担当を

願った。傍聴券の配布につき審議，また当日の討議の通訳の人選を岡本，友永両委員にお願いする。2）国際トレーニングセンター推進委員会について沼田委員長より報告。 3）国際地震工学研修委員会について久保委員より土木は橋梁，水道，港湾，ダムその他を来年2月6日から7週間特別議義するとの報告。 4）第4回地震工学研究発表会について：WCEE 発表論文の中から 6～7 編を選び十分時間をかけて討議すること，特別講演としてチリ地震およびチリ津波について総合報告を計画する。5）「耐震構造設計」英文出版について， 6）国鉄委託研究本年度継続受託について， 7）クリスナー氏文献寄贈について。

（8）八郎潟干拓の船越水道河口水理特別委員会（35.6.16，土木学会会議室）出席者：本間委員長，狩野，岸，久宝，高木，永井，細井(代三井)，溝口，堀川の各委員。農林省側：出口（利），天野，野崎（八郎潟干拓事務所調査設計課長）ほか1名。議事： 1）高木俊介委員は今秋渡米の上，長期滞米の予定につき本研究に参加できないとの申出があり農林省側も了解された。 2）八郎潟干拓事務所から「排水計画と船越水道」の資料が提出され，天野次長から研究計画の一般，野崎設計課長から研究の問題点につき説明された。 3）提出の調査表より以前の資料を追送してもらって，現場視察の前に研究しておくこととなった。4）現場視察は7月 19，20，21日を予定する。18日夜東京発，19日現場，20日審議，21日朝帰途につく。

（9）海岸工学委員会（昭.35.6.16）出席者：本間委員長，安芸顧問(代鈴木)，岩垣，久宝，林，松本，永井，太田尾，佐島，田中，堀川，岸，佐藤（代城所），鶴田（代佐藤），真嶋，細谷（代厳真），細井(代三井)，広谷（代田原），岩崎の各委員。議事： 1）八郎潟干拓の船越水道河口計画施行に関する委託研究受託についての報告， 2）Coastal Engineering in Japan Vol. 3 刊行について文部省から補助金が内定したこと，3）本年度の第7回海岸工学講演会の諸計画について，4）来年度は北海道において8月中に開催のこと， 5）国際会議に提出する論文についての打合せ， 6）委員の一部交代について，7）海岸工学用語集の推進について，8）チリ地震津波の調査報告書について。

（10）第3回土木技術者資格研究委員会（昭.35.6.22）出席者：鈴木委員長，奥田，柿野，久保，佐藤，高畑，富樫，西嶋，比企，藤森(代野口)，増山，小林，和仁の各委員，樽井幹事，末森専務。 議事： 1）前回の課題「土木士と建築士との関係において問題となる点を具体的に検討すること」について論議されたが，土木工作物と建築物との区分を明瞭にするよう具体例を示して法制局の見解を調べ次回に建設省委員から報告をうること，2）土木保安基準法を作る構想のもとに研究すること，3）前回の課題「外国の資料にもとづいて土木士の方針を研究すること」については資料の収集を次回までに推進すること，4）前回の課題「技術士の建設部門と土木士との問題点」については参考資料を作ること，5）久我虎雄氏（国鉄建設局管理課長補佐）を幹事に委嘱。

（11）第1回プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂小委員会特別委員会(昭.35.6.22)出席者：菅原，猪股，木村(代清野)，小寺，松野，沓掛，宮崎(昭)，野口の各委員，井上，船越の両幹事。議事：原案の欠けている箇条（クリープ，乾燥収縮，許容応力度）について起案すべく特別委員会を設け現行指針の各箇条につき審議し，その結果を幹事がまとめて原案を作ることになった。クリープについては実測結果のデータを早急に集めてから審議することにしこの収集につき各委員に分担願った。また一方各種鋼材の比較的長時間のリラクセーションの試験データを鋼材会社に提出してもらうよう依頼することに決定，その他指針各条につき討議した。

（12）第1回会誌編集委員会（昭.35.6.24）出席者：末森専務理事，斉藤委員長，田中(関西)，井前，奥村，海保，斉藤，堺，相良，嶋，栂野(代大河原)，中村，西田，林(四)，林(茂)，米沢，渡部，山本，都の各委員，沓掛幹事。 議事：1）投稿原稿の審査報告および新規受付原稿審査委員の決定，2）依頼原稿について，3）各委員の担当欄について，4）講座の件，5）新年度の編集方針，6）毎日学術奨励賞，偕成学術奨励金について，7）45 巻8月登載原稿を次のとおり予定した。

山田・鈴木（信）：東京都市計画，都市高速道路の計画諸要素について， 鈴木(雅)・川北：高汐に対する臨海工業地帯埋立地面高の決定に関する Operation Research，沢 勝蔵：伊東・下田電気鉄道の建設計画について， 藤波・黒沢：浄水場におけるオートメーション，その他。

（3）第4回プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂小委員会(昭.35.6.29)出席者：国分委員長，菅原，猪股，川口，木村(代清野)，小寺，松野，丹，沓掛，上前，宮崎(昭)，小田(代川路)，板垣(代猪股)，野口の各委員，井上，船越の両幹事。議事：1） 6月22日の第1回特別委員会報告， 2）原案 35 条～41 条逐条審議，3）木村委員は今後清野茂次氏(オリエンタルコンサルタンツ）と交代， 4）次回特別委員会は7月4日 14 時より土木学会会議室において開催， 5）次回小委員会は7月28日14時よりレストランとうきょうにおいて開催。

支 部 だ よ り

1. 中部支部

（1） 学生見学会（信州大学）

A班 期 日：昭.35.5.12～5.14

見学先：建設省土木研究所ほか東京都内の土木関係施設

参加者：4年生 20 名

B班　期　日：昭.35.5.13

見学先：名古屋市高速鉄道工事現場ほか名古屋市内の土木関係施設

参加者：3年生 24 名

なおこの見学会は信州大学が計画した学生見学会に支部が経費の一部を補助したものである。

（2） 第1回講演会（期日：昭.35.6.1，愛和県文化会館）

演題および講師：

開会挨拶　ＰＣ技術協会会長　坂　静雄

ＰＣ用鋼材について　住友電気工業ＫＫ　武尾敬之助

ディビダーク工法による新しい構造物について

ディッカーホーフビドマン社　ハインツ・ネーゼ

記録映画　嵐山橋

閉会挨拶　橋本支部長

聴講者は約 250 名で盛会であった。なおこの講演会はプレストレスト コンクリート技術協会が主催し，中部支部および建築学会東海支部が後援団体として協力したものである。

（3） 第3回幹事会（昭.35.6.14，名古屋工大）

出席者：渡辺幹事長，小寺，後藤，富永，加藤，宇佐見，粟田(代)，滝淵，榊(代)，藤本(代)，長坂，白井，栗栖（代）の各幹事。

1．関西支部

（1）第2回学生見学会（昭.35.6.4）

1．京都市水道局蹴上拡張工事

2．道路公団名神高速道路試験所

3．同　第一建設局山科工区，東伏見工区および鴨川橋梁工事現場

4．京都大学防災研究所宇治川水理実験所

参加費：50 円　参加者：243 名

（2）第1回幹事会（昭.35.6.7，近畿地建企画室）

出席者：小西幹事長，伊藤，大村，北村，小林，打田（代 鈴木），井部，岡田，中川，毛利，宮崎（代 藤村）の各幹事

（3）ギャンベル教授学術講演会（昭.35.6.13 第一生命ビル 12 階　好文倶楽部において，日本材料試験協会関西支部と共催）参加者：41 名

講師：コロンビア大学教授 Gumbel, E.J. 博士

演題：材料の破壊ならびに疲労強度に対する極値理論の応用

通訳　京都大学防災研究所助教授　金多　潔

（4）第2回幹事会（昭.35.6.28　大阪建設会館）

出席者：近藤支部長，小西幹事長，伊藤，井部，打田（代 安原），岡田，北村（代 大西），小林宮崎，毛利の各幹事

（5）商議員異動（昭.35.6.28 付）

昭和 35 年度補欠　新任　小原　豊（福井県河港課長）
前任田中　光課長富山県へ

〃　〃　〃　和田　良雄（兵庫県道路課長）
前任内藤録郎課長山梨県へ

〃　〃　〃　重野　仔（京都府河港課長）
前任曽根高恒課長三重県へ

〃　〃　〃　梅村　吉朗（和歌山県道路課長）
前任岩間一郎課長住宅金融公庫へ

（6）第1回商議員会（昭.35.6.28，大阪建設会館）

出席者：商議員　鬣，加納，川島，谷，重野(代奥村)，小原，梅村，赤井，水野(俊)，吉田，大山（代江本），三上，長谷川，岩垣，渥美，山下，黒川。

常講員　三宅静太郎，岩井重久。

近藤支部長，小西幹事長，伊藤，井部，打田（代安田），大村，岡田，北村（代 大西），小林，宮崎，毛利の各幹事。

3．西部支部

見学会（昭.35.5.20）若戸橋工事現場，八幡製鉄戸畑工場，関門トンネル，北九州有料道路工事現場。

参加人員　320 名（貸切バス 6 台）

編集後記

梅雨も終り本格的な夏の季節となり土木工事にとっては最盛期であり，会員各位はますます御活躍のことと思います。小生このたび田原委員長の後をうけ学会誌の編集委員長を務めることになりました。また編集委員の半数も新しくなりましたのでこの機会に一言御挨拶を申し上げたいと思います。学会は会員数15 000人でしかも学生から先輩の方までの広い層をもって構成されており，恐らく土木関係の団体の中では最大のものと思います。また学会は永い伝統があることであり，学会誌の編集はどのような方針で行くべきであろうか，学会誌はあくまで公正中立であると同時に，時代の動きにおくれないよう，むしろ将来の方向を求めて行くようにありたいものと思います。いずれにしましても会員各位の率直な御意見を得て達成されることと考えます。

さて7月号は例年のごとく土木学会の総会の特集号として編集しました。会長の特別講演，記念行事の記事および初めての試みとして最近の問題をとり上げた部門総合講演の要旨を入れました。また長い間の懸案でありました用紙改善をはかりましたので，写真などが鮮明になったことと思います。その他については今までと同様であります。

世間はいま日本は建設ブームであるといわれています。確かに土木事業はあらゆる分野でさかんに建設が行われております。建設事業の躍進と併行して問題も多いはずであり，学会誌にもできるだけこれらの問題のテーマを採り上げて行きたいと考えております。どうか会員各位より遠慮のない御意見を頂きたいことを重ねて申し上げる次第です。

（会誌編集委員長　斎藤・記）

土木学会ゴルフ会入会について

土木学会ゴルフ会は，懇親と健康の増進を目的として，去る昭和 31 年同好の会員有志で，組織せられ年々会員も増加して，現在 92 名に達しました。2カ年間に8回のトーナメントを実施して，愉快に楽しく会長杯の獲得戦を行なって,大体所期の目的を達成しております。

同好の方々の御入会を，大いに歓迎いたしておりますから，入会御希望の方々は，土木学会内ゴルフ係まで，御申出下されば，規約および入会申込書用紙を，御送りいたします。

会長　平山復二郎氏，　常任委員　金子源一郎，近藤謙三郎，高木　進の各氏。

規約抜萃

1．本会は土木学会内に置き，土木学会会員は本会会員となることができる。
1．会員の年会費は金 1 000 円とする。
1．トーナメントは毎年4回開催する。
1．トーナメント参加ごとに金　　円（現行 500円，これは賞品代と懇親会費）を納入する。
1．本会に次の役員を置く，会長1名，委員若干名（内3名は常任委員)。

現在までの記録

◎ 復活記念トーナメント（昭．31．8．29　場所 東雲）
参加人員　20 名　　優勝者　黒田　重治氏。

◎ 平井会長杯トーナメント（2年間）　◎最優勝者

1回	31．10．28	湯河原	27 名	優勝	田中　茂美氏
2回	32．1．30	千　葉	31 名	優勝	◎山田二三男氏
3回	32．5．7	検見川	10 名	優勝	近藤謙三郎氏
4回	32．7．30	新川崎	27 名	優勝	田中　五郎氏
5回	33．2．14	千　葉	21 名	優勝	田村　啓三氏
6回	33．5．28	大　洗	19 名	優勝	安藤　新六氏
7回	33．7．29	検見川	18 名	優勝	青木　楠男氏
8回	33．10．22	検見川	18 名	優勝	鈴木　雅次氏

◎平山会長杯トーナメント（2年間）

1回	34．3．17	検見川	13 名	優勝	尾崎　義一氏
2回	34．5．28	東　雲	20 名	優勝	西畑　正倫氏
3回	34．8．20	大　洗	21 名	優勝	中野喜久夫氏
4回	34．11．30	高　坂	27 名	優勝	森　　茂氏
5回	35．4．1	検見川	15 名	優勝	原口忠次郎氏
6回	35．6．14	小　山	26 名	優勝	金子源一郎氏

7回　8月中旬大洗ゴルフクラブの予定

会員入退会について（昭和 35 年 6 月 30 日現在）

1．入　　会　253 名（正 115，学 134，特 1C　2，特 2　1，特 3　1）
2．復　　活　3 名（正 3）
3．転　　格　9 名（特1C～特3　1，学～正 8）
4．退　　会　31 名（正 31）

会員現在数（昭和 35 年 6 月 30 日現在）

名誉員	賛助員	特 1 A	特 1 B	特 1 C	特 2	特 3	正員	学生員	増加	計
34	30	17	17	100	126	123	13 473	1 141	225	**15 061**

名誉員　**黒河内四郎君**　保線協会会長　　昭和 35 年 6 月 3 日死去　78 才

昭和 35 年 7 月 10 日印刷　　昭和 35 年 7 月 15 日発行　　**土木学会誌　第 45 巻　第 7 号**

印刷者　大沼正吉　　印刷所　株式会社　技報堂　　東京都港区赤坂溜池 5 番地
発行者　末森猛雄　　発行所　社団法人　土木学会　　東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)

定価　100 円　　振替　東京　16828 番　　電話　(351) 5130・5138・5139 番